

津波の到達点をつなぐ桜ラインの植樹開始

陸前高田市に 松田の桜が咲く

11月6日(日)、岩手県陸前高田市高田町洞の沢にある浄土寺で「桜ライン311」の植樹が開始されました。この桜ライン311は、同市の青年会を中心に結成された「桜ライン311実行委員会」が、東日本大震災による津波の到達点を桜の木でつなぎ、避難する目安として後世に伝えようとする活動です。

桜ライン311の活動は、「震災を忘れないために、3月11日に近いタイミングで咲く桜を植える」という案を戸羽陸前高田市長が著書内に記していたことから、「松田の桜を役立てて」と島村町長が提案したことがきっかけで始まりました。町では、寄地区の中津川沿いの河津桜20本を桜ライン311実行委員会に贈り、町長や鈴木町議会議長たちが6日に行われた植樹祭に参加しました。造園業者の遠藤商事、内藤農園、原造園、(株)フランドの皆さんに桜の運送と植樹を手伝っていただき、



桜ライン実行委員会 橋詰代表(左から2番目)と町長たちによって植樹された桜ライン第1本目の桜の木

「私たちは、悔しいのです。」という言葉から始まった桜ライン311実行委員会の橋詰代表のあいさつでは、過去の記録に東日本大震災による津波と同等の津波があったことを知り、「震災前から今回のような10メートルを超える津波が発生する可能性のあることが市民の間で浸透しているれば、津波によって奪われた命はもっと少なくて済んだのでは」という無念の思いを語られました。そして、「この教訓を生

津波の記憶を後世に

いつか松田の満開の桜を見てみたい

かし、桜ライン311によって、津波の被害を後世に伝えていきたい」と述べられ、あいさつを締めくくりました。

また、松田町について、「皆様のご厚意に心から感謝を申し上げます」という言葉をいただき、「これを機に交流を続けられたい」と話されました。



桜ラインの活動について語る橋詰代表



造園業者や寄さくらの会の皆さんによる急斜面への植樹の作業



津波被害の甚大さを物語る陸前高田市役所前



7万本のうち1本だけ残った高田松原の一本松